

P-24 COVID-19 感染予防に配慮した4年次臨床実習後技能評価試験の実施と課題

○船原まどか, 中道 敦子, 邵 仁浩, 本田 尚郁, 磯部 彩香, 秋房 住郎,
辻澤 利行, 日高 勝美, 引地 尚子

九州歯科大学歯学部口腔保健学科

Implementation and problems of Objective clinical skill evaluation test after clinical training in consideration of COVID-19 infection prevention

○FUNAHARA Madoka, NAKAMICHI Atsuko, SOH Inho, HONDA Hiroimi, ISOBE Ayaka, AKIFUSA Sumio, TSUJISAWA Toshiyuki,
HIDAKA Katsumi and HIKIJI Hisako

School of Oral Health Sciences, Faculty of Dentistry, Kyushu Dental University

キーワード: 客観的臨床能力試験, 臨床実習後技能評価試験, 学生教育

Key words: post clinical clerkship objective structured clinical examination, objective clinical skill evaluation test after clinical training, student education

目 的

客観的臨床能力試験は、臨床現場における学生の能力と適性を適切に評価する方法として、医学・歯学教育で実施されている。歯科衛生士教育では必須要件とされていないが、実際の臨床における学生の能力や適性を評価することは医療系教育にあっては重要であり、同等の試験を取り入れる歯科衛生士養成校が増加している。某大学口腔保健学科においても臨床実習後技能評価試験を実施する中で、2020年度はCOVID-19の感染拡大に際し、対面での本試験実施の是非について検討された。その結果、感染予防対策を十分に行ったうえで実施したため、その取り組みについて報告する。

対象と方法

某大学口腔保健学科在籍の4年生24名(女性)に対して、2020年7月末に試験を実施した。課題はCOVID-19感染リスクを考慮し、個人防護衣着脱を中心とした1課題とした。課題を読ませる時間を1分与えたのち、試験時間を8分に設定した。学生4人同時に実施し、移動時間を含め1クールあたり13分、6クールで行った。実施上感染予防に配慮した事項は以下の通りである。①密集を避ける考慮: 学生待機場所は大部屋を使用し、マスク着用の上で分散して着席させ、常に換気を行う。試験実施後にビデオで評価し、試験室内に評価者は立ち入らない。模擬患者はMANABOT®(ニッシン, 京都)を使用する。②時間: 通常2室で行っていた試験室を4室に増加し、総試験時間を短縮する。③換気: 1クール毎に試験室を3分間換気することに加え、3クール後に15分間の換気時間を設ける。④消毒: 病室を想定した試験室のドアノブなど、学生・評価者間で感染のリスクが想定されるものは、1クール毎にアルコール綿花で評価者が消毒を行う。⑤その他: 学生は試験

室への移動時もマスクを着用させ、試験室前でマスクを外させ試験室に入室させる。学生への事前説明および試験実施後のフィードバックはWEB会議ツールを用いる。

また学生に対し、試験実施およびCOVID-19に関わるWeb質問紙調査を行った。

本研究は九州歯科大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号20-21)。

結 果

試験結果は、過去に某大学口腔保健学科で行った臨床実習後技能評価試験の結果と比較し、著しい成績差はなかった。今後の実施課題としては、ビデオ撮影に映る範囲内に学生の導線を設定する必要があるため、それを可能にする課題を作成しなければならないことが挙げられた。本試験のメリットとしては、当日の実施教員数が例年より少なく実施できたことや、評価者間のキャリブレーションにビデオ映像を用いたため、評価がスムーズであったことなどが挙げられる。学生に対する事後アンケートにおいても、試験実施について前向きな回答が得られた。

考 察

医療系職種は臨床現場で状況を判断し、その場にふさわしい態度をもって、それぞれの職種に求められる行動や業務を行う必要がある。これは歯科衛生士においても同様であり、これらの能力の修得を目指して日々臨床実習が行われている。そのため、歯科衛生士教育においても客観的臨床能力試験を模した臨床実習後技能評価試験を行うことは重要であると考えられる。本試験はCOVID-19感染リスクを考慮した試験の実施に重点を置き、実施方法や課題を計画した。今後は本試験で抽出されたメリットや問題点、技術評価項目について検討し、十分な感染予防策に努めたうえで、試験を実施したいと考える。